

第58回 全道へき地複式教育研究大会網走大会

海も凍る厳寒の地オホーツクの温かさに感動してください。

第58回全道へき地複式教育研究大会網走大会実行委員長 清水 洋一

第57回全道へき地複式教育研究大会檜山大会の成功、おめでとうございます。実行委員会の皆様のご努力と会場校の校長先生をはじめ教職員の皆様方のご活躍に心より拍手をお贈りしたいと思います。

さて、来年は海も凍る厳寒の地オホーツクに是非お越しください。そして、そこに住む人々の温かさに感動してみませんか。冬はマイナス25度。2月には海も流水で凍るのです。ですから、畑は1mの深さまで凍るところもあります。とり残した野良芋も次の年に芽を出すことができない厳しさです。しかし、夏はフェーン現象でプラス35度。とてもメリハリのある地域だと言えます。

教育改革の波が怒涛のごとく押し寄せてきていますが、小規模校だからこそ地域の力強い支援と協力を得て、しっかりと受け止める

ことが大切だと考えています。

網走大会は、9月17日(木)北見市で全体会・講演会、9月18日(金)11校8会場の分科会で授業公開と研究協議を行います。ほとぼしる授業者の熱意と子ども達の輝く瞳が待っています。

これまでの成果を受けた第8次長期計画5カ年計画の1年次です。たくさんの方の元気を受け取ってほしいと願っています。

そして、帰り道は、オホーツクブルーの空の下、のんびりと車を走らせてほしいと思います。秋鮭、帆立、急速冷凍された毛蟹や北海シマエビを味わうこともできます。大会終了後は5連休です。世界遺産「知床」もゆっくり見て帰れます。授業公開する11校の教職員と児童ばかりでなく、網走管内のへき複加盟校43校、教職員230名が皆様のお越しをお待ちしております。

大会スローガン オホーツクの大地に生きる子らに 光と輝きを

開催日 平成21年9月17日(木)全体会・歓迎交流会 9月18日(金)授業公開

会場校	研究テーマ・サブテーマ	分野・課題・教科
1 斜里町立峰浜小学校	いきいきと表現できる 児童をめざして ～子どもたち一人一人の学ぶ意欲を高める指導の工夫～	学習指導7 生活科・総合的な学習の時間
2 清里町立新栄小学校	共に学び合い、生きる力をはぐくむ子どもの育成 ～自他の思いを深め合う集合学習～	学習指導4・5・6・7 集合学習(全教科・領域)
3 美幌町立福豊小学校	自ら学び、生きる力を育む授業の創造 ～学ぶ意欲を引き出す算数科の授業づくりを通して～	学習指導5・7 算数
4 北見市立川沿小学校	自ら主体的に学び、自分の思いを表現する子どもの育成 ～お互いの良さを認め合い、高め合う集合学習をめざして～	学習指導3・4 集合学習(道徳・音楽・体育)
5 遠軽町立瀬戸瀬小学校	自ら意欲的に学ぶ子どもの育成 ～基礎・基本を重視した算数指導の工夫を通して～	学習指導5 算数
6 上湧別町立開盛小学校	個々のよさを発揮し、互いに認め合い、共に生きる児童の育成 ～英語活動を含む、さまざまな表現活動を通して～	学習指導7 英語活動・国語
7 滝上町立白鳥小学校	自ら学び、実践する子どもの育成 ～算数科の授業を通して～	学習指導5・6・7 算数
8 雄武町立幌内小学校	自ら考え、進んで学ぶ子どもの育成 ～一人一人のよさを認め合い 思いや考えを深め合う学習活動～	学習指導6・7 国語



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com/dohekiren

委員長 梅木 登喜雄
編集責任者 寺口 悟

印刷所 有限会社 岡本印刷
旭川市6条西5丁目 ☎(0166)22-0752

題字 書家 濱谷彩鶴(はまや・さいかく)氏



第57回
全道へき地複式教育研究大会
檜山大会特集号

新しい歴史を拓く檜山の子らに

豊かな心と確かな学力を

書 檜山大会実行委員長 長政 康

ともとも 教師よ、教師よ、太陽となって

あすひらく知恵を、あす築く意志を

あすつくる夢を 育てよう…

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 梅木 登喜雄



平成20年度のへき地教育の研究大会が全道、全国の各地で開催されています。北海道では9月に檜山管内において江差町を主会場に5町7分科会場で開催することができました。全体会での講演では、瀬戸内寂聴先生のお話もあり、へき地教師ばかりでなく多くの町民の参加を得ての大会となりました。盛会裡に終えることができましたことを関係者と共に喜び合いたいと思います。開催に向けてご準備をいただきました檜山大会実行委員会の皆様と関係各位に対しまして心からお礼を申し上げます。

また、檜山大会の終了をまって行われている網走プレ大会では、網走管内のみならず全道の仲間の皆さんの参加を得て開催されていますことを心強く思っています。次年度の網走大会の成功に向けて課題等を見出し、研究の充実を図っていただきたいと思います。プレ大会を行っての研究の進め方は、全国的にも数少なく、日本のへき地教育の充実・発展のために北海道が進めてきた財産の一つであります。是非、大事にしていきたいと思ひます。

さて、本原稿のタイトルに載せてある言葉はご承知かと思いますが、「へき地教師のうたー太陽となろう」の一部であります。北海道のへき地教師の作詞・作曲によるものであり、全国のへき地教育の大会で歌われているものであります。教師よ、教師よ、太陽となって…とへき地教師が思いを込めて歌う姿には、へき地教師としての自信と誇りを感じます。初めてこの歌を聴く来賓の方々の声からも温かいエールの言葉が聞かれます。歌詞にある通り全国には山間や海辺に多くの小さな学校が散在し、そこでは教師と子ども達が生き生きと教育活動を進めています。学校統廃合が進む昨今ではありますが、まだまだ、小規模校の良さや特性を生かし、地域に根ざした教育を進める学校が日本には多くあります。そのことを改めて感じながらまた日々の実践に邁進したいものであります。

結びになりますが、今年度で終了する第7次の長期計画の成果と課題を基に、次年度からの新たな研究に努めて参りたいと思ひます。また、各学校におかれましても、学習指導要領の改訂に伴う、移行措置の時期を迎え、この時期を一つの変革の機会と捉え、へき地教育の良さを取り入れた教育課程の編成に向けてご尽力いただければと思ひます。